



日・カンボジア投資協定



カンボジアの重要性

- 人口約1300万人
- 面積約18万平方キロメートル(日本の半分)
- バンコク、ホーチミンを結ぶ第二東西回廊の要衝
- 与党人民党政権下での政治的安定性
- 著しい経済発展(過去3年は二桁の成長率)
- 豊かな農業資源・鉱物資源(石油、天然ガス、銅、ボーキサイト等の試掘には日本の投資家も参加)

カンボジアへの直接投資

- 世界各国からのカンボジアへの直接投資額は約23.3億米ドル(06年フロー)。中国や韓国等近隣諸国からの直接投資が、縫製、観光業を中心に急速に増大
- 06年の投資額第1位は韓国、第2位中国、第3位ロシア
- 日本からの直接投資は過去5年で400万米ドル。カンボジア側からは日本からの直接投資の促進に対する強い期待あり。

日・カンボジア投資協定のポイント・意義

●カンボジアにおける投資の自由化及び我が国投資家の権利保護

我が国が近年締結した投資協定及び経済連携協定(EPA)の投資章と同様に、投資財産の保護及び、自由化に関する規定を置き、レベルの高い内容

- ①投資の許可段階の内国民待遇の原則供与(第2条)、②締約国による投資家との契約遵守義務(第4条)、③投資阻害要因効果を有する特定措置の履行要求の原則禁止(現地調達要求、技術移転要求等)(第6条)、④カンボジア側の自由化への留保は非常に少ない(6分野:土地所有、エネルギー産業の一部、林業及び木材伐出業)

我が国投資家にとってのメリット

- ①投資家の「安心感」の確保を通じた対カンボジア投資意欲の増大
- ②政治が安定し、経済の潜在力が高く、労働コストが低いカンボジアを海外投資先に含めることにより、リスク低減・分散を通じ、海外投資を安定化し得る。